

2024年4月17日

学校法人東京YMCA学院 江東YMCA幼稚園

2023年度 学校関係者評価（自己評価・関係者評価）報告

学校評価にかかる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の改正に伴い、評議員会にて行っていた自己評価を今年度も学校関係者評価委員会を開催（書面）し自己点検評価をまとめましたのでホームページ等で公表いたします。広く皆様からのご指導を賜り、さらに幼児教育の理想に向かっていくための評価といたします。

I. 本園の教育目標

「主体的に生きる」

- A. 子どもたちにとって、かけがえのない「幼児の日々」をゆっくり、大切に見守ります。
- B. 子どもたちの生活＝「遊び」。その中で様々な経験をし、自立する力、社会性、想像力の育ちを支えます。
- C. ご家庭の豊かな愛情、先生やお友だちとの深い交わりの中で、自分が大好き！まわりの人も大好き！ともに成長できる心を育みます。

II. 本年度重点目標と取り組みと評価

A. 重点目標

1. 日本YMCAの理念・使命、東京YMCAの方針・目標を基盤に、江東YMCA幼稚園 の想いの実現のため幼児教育を追求する。
2. 日々成長する子どもたちの為に、より主体的に自発的な遊びが展開できるよう工夫し豊かな教育環境を整える。
3. 人的環境としての教師の在り方を研究し実践に繋げる。
4. 2歳児対象の、預かり保育の継続。
5. 子育て支援を目的とした朝8時からの継続と、夕方18時までの預かり保育の発足。

B. それぞれの取組状況と評価

1. 新入職員を加え、年度初めに改めて日本YMCAの理念・使命、東京YMCAの方針・目標を確認し合い、江東YMCA幼稚園の想いをしっかりと心に刻み新年度をスタートした。月ごと、学期ごとの教師会、日々の保育の振り返りなどで園児一人ひとりの成長を確認しながら1年間教育を進めてきたことで教職員が一致した保育感で子どもたちと共に過ごすことが出来た。子どもたちの成長に不可欠な教育として年間を通しての行事及び年間計画を作成している。豊かな経験から多くの成長がなされるとの想いに重点を置く教育を行っていることから、今年度も行事や年間計画を考える時、「より子どもたちの主体性を重視した保育計画」「どの

ように考え環境を整えることで子どもたちが、ねらいに沿った豊かな経験ができるか」を教師全員で考え、実践した。

2. 今年度から対面の研修も多くなり、夏休み期間中に開かれたキリスト教保育連盟関東部会主催の宿泊研修に参加し「保育の質の向上」について学びを深めた。また、東京YMCAの教育・保育事業部全体研修では春・秋と「インクルーシブで豊かに育ちあう」をテーマに学び実践に繋げていった。
3. 週3日間、2歳児の預かり保育（2時間）。今年度は人数が2倍に増え、15人で過ごした。幼稚園と変わらない教育方針で、一人ひとりの想いを大切に、経験を通してゆっくりと学び合う。園庭で年少・中・長と異年齢の交わりもあり、次年度の園生活に繋がっている。
4. 子育て支援を目的とした預かり保育の時間を18時まで延ばしたこと、保育園からの転園者が増えた。また、仕事を始められる保護者もおり、時代に沿った対応が出来た。

C. 江東YMCA コミュニティセンターとの一体化

世界をみつめ、地域に根差す江東YMCA幼稚園として、こどもを中心としたコミュニティ創設のための働きを行う。江東ワイスメンズクラブのロールバックマラリアに園児たちのクリスマス献金のお捧げ、国際協力募金ではバングラディシュのこどもたちへの識字教育、ハワイ（マウイ島）の山火事、ウクライナ、パレスチナの紛争救済支援、近隣の都立木場公園のチャイルドガーデン（チューリップの球根植え）など、一体化した地域社会の実現のために発信する幼稚園として継続することができた。

D. 預かり保育の実施（1号認定対応14～16時、新2号認定対応8時～18時）2歳児クラスの充実など、保護者一人ひとりのニーズに寄り添う更に開かれた幼稚園を目指し継続した。

E. 教職員の質の向上。OJT研修とチームでの連携指導体制を強化した。

日々の職員会での各クラス園児一人ひとりの振り返りを共有する。

「江東区」「キリスト教保育連盟」「都私幼連」「東京YMCA教育保育事業部」の研修や幼稚園独自の勉強会に参加する。

F. 将来展望職員会と将来構想委員会の設置

1. 園長と館長、学院職員による短期的な展望計画を立てた。
2. 理事・評議員、有識者に卒園保護者を加えた将来構想小委員会を立ち上げた。
3. 次年度に中期計画を立て子どもたちにとってさらに充実した教育保育環境を獲得することができた。

III. 総合的な評価と今後の課題

A. コロナ感染症が5類に移行したことで、園生活を規制されることなく行うことができた。

1. 1日もコロナによる休園日を出さずに幼児教育・保育活動を行うことができた。
2. 入園式は久しぶりにご来賓を招待し、園児代表として年長組も参列し、新入園児及び教職員、全員で行うことができた。
3. 親子遠足は近隣の公園にお弁当を持って出かけた。昼食は親子でお友だち同士一緒に楽しく会食した。
4. 近隣の町会、交番、園医、お世話になっている地域の方々に花の日礼拝の翌日（6月2日）に感謝の花束を持って訪問した。年長クラスでグループに分かれて訪問した。また、おまわりさんにご来園いただき、年少の子どもたち一人ひとりから感謝の花をお渡しした。
5. 運動会は扇橋小学校グランドをお借りし、応援の方々も人数制限をせずに開催できた。未就園児プログラムは例年通り、小学生プログラムも数年ぶりに行うことができた。
6. バザーは、4年ぶりにコロナ禍前の状況に戻し、地域の方々にも開放し開催できた。模擬店の飲食も可能となった。幼稚園・コミュニティーセンターに関わる方々が大勢お越しくださり、数年ぶりの再会に喜んだ。
7. 年長組のお楽しみ保育（幼児教育・組織キャンプ）を2泊3日で実施、大学生がボランティアリーダーとして、教師とは違う目線で子どもと関ることが特徴である。

B. 保護者会でも以下の行事を行うことができた。

1. 6月に教職員と保護者との懇談の場、11月に3学年の保護者間での交流の場を設けた。
2. 11月のバザーではコミュニティーセンター他と協力のもと、3コーナーを請け負った。
3. 12月に牧師の先生をお招きして保護者が聖書に親しむ機会を設けた。

C. 安全対策

1. 扇橋小学校の体育館まで避難をする訓練は扇橋小学校のご協力により行うことができた。
(幼小の連携、津波対策など)
2. 様々な状況（火災・地震・津波など）に対応できるよう、月に一度、避難訓練を実施した。

D. 施設改修

1. 各クラスの床とトイレ、園庭からの入口周辺の整備改修
2. レク棟の屋根、天窓の改修
3. 園庭の砂をけずり、水場、滑り台、外壁の塗り直しを実施
4. 本館からレク棟への渡り廊下（2階部分）の付替えを実施
5. 玄関自動ドアをオートロックシステムに改修を実施

E. 新設クラスと園児募集

1. 今年度も定員を設けて来園型説明会、ウェブ説明会を行った。体験会では来園されて園内・園庭でそれぞれの想いを持ち活発に外遊びを楽しむ姿、砂場で存分に砂遊びを展開する子ど

もたちの楽しそうな様子を見て入園を決めてくださる方が多かった。

2. 2016年秋より預りクラス（くまっこクラス）を始めている。
3. 2023年は、4月から2歳児クラス（つくしぐみ）をスタートした。2歳児から6歳児までの継続的なお預かりができるようになった。その結果、幼稚園年少組への入園に繋がった。
4. こぐま広場（6・7・9・10・11・12・2024年1・2月の計8回）
0～5歳児を持つファミリーへ園庭開放を実施、安全が確保された環境で、先生と遊ぶこと、また保護者は子どもを見守りながらカフェタイムの時間などを設け、親子共に楽しんでいただくことで園をよく知っていただく機会となった。
5. 2024年度から満3歳児クラスを開設予定である。

IV. 学校関係者評価（各委員からの評価）

A. 在園保護者

2023年度の1年間も今までと変わらず、遊びを通して子ども達が成長する保育環境を整えていただいたと感じています。

朝登園すると、各お部屋には季節、学年に合わせた遊び道具が整えられています。遊び道具といつてもカラフルな音がなるおもちゃではなく、子どもが想像を膨らませて何にでも変身できる木や布等の素材です。

身体を動かすことが大好きな我が子ですが、今は毛糸を使った指編みに凝っています。親には意外な一面でしたが、先生が寄り添い見守ってくださるからこそ、一人で集中して取組む事、作り上げたときの達成感など、外遊びでは感じられないことに気付けたと思います。

今、その子にとって大切なことは何か、ということを日々先生方が考えてくださっていることを保護者も感じられ、安心、信頼して子どもを預けられる環境です。これからもこの環境が保たれつつ、発展していくことを願っています。

B. 在園保護者

今年度の虹っこは、コロナ終息と、母親が働く家庭が増えてきたことで、実質的な一年目の運営だったと思う。去年の実績により、共働き世帯にとって預けやすい環境が整いつつあると感じた。長期休みもほぼ預かり保育があり、お弁当型給食も始まったことも頼もししい。

園の中でリトミックやサッカーなどのプログラムに通わせることができること、東京YMCA主催のチャリティランや、子どもたちと町のごみ拾いをしながら歩くクリーンレンジャー、ファミリースキーなど、土日に家族で参加できるイベントがあることも魅力。

虹っこ専用に、れんらくちようを作っていただけのことや、ロビーの掲示板やインスタグラムなどで保育中の様子を伝えていただけるツールが増えた。園と保護者でコミュニケーションをとつて、子どもたちがよりよい園生活を過ごせるよう柔軟に改善ができる園だと思った。

今後の期待としては、送迎や行事参加を父親が担う家庭も増えてきている中、行事の中で、父親はここまでと仕切られる部分があって違和感を感じるところがあったので、平等にしてもいいの

ではないか。

C. 在園保護者

コロナ禍も少し落ち着いた今年度も変わらず、江東YMCA幼稚園の教育目標である「主体的に生きる」を体現する、先生方の信じて見守ってくださる姿勢が子どもたちに自信とこれからを生き抜くための大きな力を与えてくださっています。

園児の誕生日には一人ひとりに何を食べたいか事前に聞いて、リクエストの手作りお菓子を先生方が作ってくださり、みんなで食べるなど、先生方の深い愛情と、ひとりひとりを大切にしてくださるのがよくわかります。

運動会での種目決め、聖劇の役決め、お芋ほりで掘ったお芋の食べ方、日々の遊びを園児同士で話し合って決めるなど、先生方が子どもたちの意見や「やってみたい」を大切にしてくれたことで、「自分で考えて行動する」ことが身についたと感じています。けんかをしてしまった際も、子ども同士の話し合いを通じて、それぞれの思い、意見を聞いてくれています。さらに、お礼拝などキリスト教に基づいた厳かな時間を過ごすことで、自分自身を見つめる機会にもなっていると感じています。

「江東YMCA幼稚園に弟を入れてあげてほしい。自分がとても良かったから」という4歳上の兄の一言で入園を決めた弟（現在年長組）の3年間を振り返ると、いかに園での生活が子どもにとって充実していたかを凝縮された言葉だったと改めて感じています。

また、今年度から週3回2歳児の預かり保育が始まり、幅広い年齢の子どもたちが園庭で一緒に遊ぶことを通じて、在園児も色々なことを学ぶことができているように思います。

様々なプログラム（サッカー、幼児体操、リトミック、ピアノ、バレエ、キッズ英語等）も幼稚園の園舎である江東センターで受けられるものが増え、幼稚園の教育とのバランスが良く、保護者にとっては大変ありがとうございます。

D. 在園保護者

ずっと変わらぬ園の方針「主体的に生きる」を柱に、今年度在園の子どもたちに合った保育を常に模索してくださり、その子たちの「今」に丁寧に寄り添ってくださるのを親子で感じながら日々過ごしています。コロナ禍が明けて、各行事が通常運転に戻った中でも、ただコロナ渦前の形式に戻すのではなく、工夫を重ねて今年らしく展開してくださったのは、当園の教職員の皆さん努力や想いが詰まっているからだと思います。

また、今年度は園舎や園庭の改修工事が行われ、より安心・安全な環境が整えられたことは好意的に捉えています。例年より園児数が減少したことは非常に残念ですが、その分広々とゆったりと過ごすことができるのは、子どもたちにとって理想的な環境となっているように見受けられます。

更に、預かり保育の時間が延長されたり、お弁当型給食が開始されたりしたこと、就労時間が長い保護者にも通い易い園となりました。それに伴い、より多種多様な保護者が集うコミュニティ

ィーが形成されつつあり、父母会の役員業務内容や保護者の係活動の設定の仕方に一定の難しさも覚える一年でした。

幼稚園が幼児教育の基軸を守りながら、時代の流れに沿って、進化・発展していくのを保護者も理解し、支え、見守りつつ、同時にそれを楽しめるような関係性が続いていくことを期待しています。

E. 理事（学識経験者）

本園は遊びを通して主体性、社会性を育てることを教育目標に掲げている。コロナ禍の規制から解放されて遠足、地域への感謝、バザー、キャンプなどの行事が行われたが、これらが教育目標の理念に基づいて展開されたことに大きな意義がある。教職員が対面の研修を通じて目標を意識しながら園児の成長を確認し合って教育を進めてきたことは、評価に値する。主体性、社会性(協調)、感謝の心(利他性)は民主主義の柱であり、これらを幼児教育の段階から育んで行くことは民主教育の原点でもあることを教職員は忘れないでもらいたい。

大切なお子様を預かっているのだから安全対策は最も重要事項であるが、施設の改修も適切に実施されている。月1回避難訓練を実施しているのは、園内の災害時に取るべき行動を子供たちが身につけるのには大いに役立つ。災害は時と場所を選ばないので、さらなる安全教育が望ましい。

18時までの預かり保育を始めたが、子育て支援という時代の要請に応えたもので大いに評価すべきことである。教職員の過重負担にならないような役割調整をしてもらいたい。

教師全員で子供たちが豊かな経験ができるかを考え、本園の目標を基本に据えて年間行事を実践している。このみんなで考えるという体制を崩さないでもらいたい。

F. 地域関係者

幼稚園の教育方針を基に教職員は子どもたち一人ひとりの個性を大切にして丁寧に関わっていることが伝わってくる。教諭は保育全般の様々な研修などに参加し、学び得たことを実践につなげるために努力している様子がうかがえる。教員間、そして家庭（保護者）とのコミュニケーションも大切にし、全園児のことを全教諭で受け止め理解しようとしていることが感じられる。

共働き家庭のお子さんも多いようだが、保護者との関りは、しっかりと行われているようで保護者からの信頼も厚い。

常に子どもたちの安全を最優先して有意義な活動がなされている。

これからも YMCA の総合力を生かして、地域と一緒に歩んでいってほしい。

G. 園長

今年度も江東YMCA幼稚園に関わる方々からご忌憚のない評価を頂戴いたしましたこと、心から感謝申し上げます。多くの方々に園の想いをご理解いただき、お支えいただく中、子どもたち一人ひとりの想いを尊重し、寄り添い、子どもたち自らの育みを大切に過ごして参ることが出来ました。ご指摘・ご提案に関しましては真摯に受け止め、改善策を考えてまいります。保護者の方々にご所属

いただく「虹の会」に関しまして、昨年度大幅な見直しを致しました。様々な活動に、より楽しんでご参加いただく実践の年となりました。お陰様にて、保護者の皆様が様々にご参加くださる活発な活動は、今年度も幼稚園のお支えと、子どもたちの為の豊かな育みに繋がりました。昨年度、多くのご指摘をいただきました園の設備の見直し、老朽化につきましては子どもたちの安全な環境を整える観点から優先順位を定め、修繕計画を立て、夏休み期間に工事を進めることが出来、環境の改善を致しました。長期計画に基づき大型営繕にも計画的に努めて参ります。今後とも皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

以上